三朝町

三朝区ジンショ保存会

<会　長> 藤井（ふじい）　博美（ひろみ）さん

<設　立> 平成 15 年 1 月
<役員数> 22 名
<連絡先> 電話 090-8004-2198

藤カズラで編んだ大綱を引きあう

「三朝区ジンショ保存会」は、三朝区の伝統文化である「三朝のジンショ」を伝習保存し、技術伝承者の育成を目的に平成 15 年に組織されました。

「三朝のジンショ」とは、毎年 5 月 4 日の花湯まつりの最後に行われる、全国でも珍しい藤カズラで編んだ全長 50 m以上の大綱を 2 本つないで引きあう大綱引きです。明治以前から続いており、平成 18 年には国の重要無形民俗文化財にも指定されました。

存続への重圧と責任感

もともと「三朝のジンショ」は村の青年団の実行委員会が行っていました。その後、三朝区に運営を移行し、重要無形民俗文化財の指定を目指す際に保存会を設立して、本格的に保存・伝承に取り組む体制になりました。

長い歴史のなかで、ジンショの最中に大綱が切れるトラブルが発生したことがありました。技術伝承が十分でなかったという自責の念から当時の責任者が大泣きしたことは、今でも忘れられないでき事です。この伝統文化を継続させるため、会員のみなさんは重圧を感じながらも相当の責任感を持ち、気合いをいれて取り組んでいます。

ボランティアの力をもらって

伝承活動は、地元住民を中心に進めていますが、近年は、住民数減少の影響で、カズラの綱を編む「綱からみ」や綱引きの舞台となる温泉本通りへの「綱出し」を行う人出不足が課題となっていました。そこで地元を中心に参加を呼びかけたところ、町内に研究所があることが縁で岡山大学の留学生や近隣の鳥取短期大学の学生に加え、地元中学生など多くのボランティアが参加したいと手を挙げてくださいました。令和 6 年は 70 名近い方の支援を受け、「三朝のジンショ」を盛大に実施することができました。

盛大に繰り広げられる「三朝のジンショ」

これからの保存・伝承活動に向けて

令和 2 年から 4 年は、コロナ禍の影響で花湯まつりの中止とあわせて「三朝のジンショ」も中止を余儀なくされました。そのような状況下でも、令和 3 年には大綱の重要部分のみを作成する「綱からみ」を実施するなど技術伝承等に努め、令和 5 年から見事に再開しました。また同年、隣接する倉吉市において「倉吉ジンショ」の復活にも協力し、今後の人材確保の支援や技術伝承などについて相互に連携することもはじまりました。

今後もボランティアの参加を積極的に受けるなどしながら、広い視野で伝統文化の担い手の確保・育成に取り組んでいきます。

ボランティアも参加しての「綱からみ」